

令和3年度入学者選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。
また、別に解答用紙が(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

| | |
|---------|---|
| 受 検 番 号 | 番 |
|---------|---|

1

次の1から4までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 専属契約を結ぶ。
- (2) 爽快な気分になる。
- (3) のどを潤す。
- (4) 弟を慰める。
- (5) わらで作った草履。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 船がギョコウに着く。
- (2) チームをヒキいる。
- (3) 友人を家にシヨウタイする。
- (4) ゴムがチヂむ。
- (5) シュクレンした技能。

3 次の、生徒たちが俳句について話している場面である。これについて、(1)から(4)までの問いに答えなさい。

大寺を包みてわめく木の芽こかな

高浜たかはま虚子きよこ

Aさん 「この句の季語は『木の芽』だよね。」

Bさん 「そうだね。この句は、『わめく』という表現が印象的だけれど、どういう情景を詠んだものなのかな。」

Aさん 「先生から教おしえてもらったのだけれど、『わめく』というのは、寺の周囲の木々が一斉に芽をこ（③）た情景だそうだよ。」

Bさん 「なるほど。木々の芽が一斉に（④）た様子を『わめく』という言葉で表しているんだね。おもしろいね。」

Aさん 「表現を工夫して、俳句は作られているんだね。私たちも俳句作りに挑戦してみようよ。」

(1) この句に用いられている表現技法はどれか。

- ア 対句
- イ 直喩
- ウ 体言止め
- エ 擬人法

(2) 木の芽 と同じ季節を詠んだ俳句はどれか。

- ア チューリップ喜びだけを持つてゐる
 - イ 転びたることにはじまる雪の道
 - ウ 触るるもの足に擲なめて兜かぶと虫むし
 - エ 道端に刈り上げて稲のよこれたる
- (細見綾子) (稲畑汀子) (右城暮石) (河東碧梧桐)

(3) 教おしえてもらった を正しい敬語表現に改めたものはどれか。

- ア お教おしえした
- イ 教おしえていただいた
- ウ お教おしえになつた
- エ 教おしえてくださった

(4) (③) (④) (④) (④) には、「出でる」と「出だす」のいずれかを活用させた語が入る。その組み合わせとして正しいものはどれか。

- ア ③ 出し ④ 出
- イ ③ 出し ④ 出し
- ウ ③ 出 ④ 出し
- エ ③ 出 ④ 出

4 次の漢文の書き下し文として正しいものはどれか。

- 過あやまち 則すなはち 勿なかり 憚はばかる 改あらため
 - 過あやまち 則すなはち 勿なかり 憚はばかる 改あらため
- (論語)

- ア 過ちては則ち勿かれ憚ること改むるに。
- イ 過ちては則ち憚ること勿かれ改むるに。
- ウ 過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。
- エ 過ちては則ち憚ること改むるに勿かれ。

次の文章は、駿河国(現在の静岡県)に住んでいた三保と磯田という二人の長者についての話である。これを読んで1から5までの問いに答えなさい。

時に十月の初めのころ、例のごとく、碁打ちでありけるに、三保の長者が妻にはかに虫の氣付きて、なやみければ、家の内さわぎ、とよみけるうち、やすやすと、男子をぞ産みける。磯田も、このさわぎに、碁を打ちさして、やがて家に帰りけるが、これもその日、夜に入りて、妻なるもの、同じく男子を産みぬ。両家とも、さばかりの豪富なりければ、産養ひの祝ひこととて、出入る人、ひきもきらず。賑はしきこと、言へばさらなり。

(1) さて二日を過ぐして、長者兩人出會ひて、互ひに出産の喜び、言ひ交はして、磯田言ひけるは、「御身と我と、常に碁を打ち遊びて、睦ましく語らふ中に、一日の中に、相共に、妻の出産せる事、不思議と言ふべし。いかに、この子ども、今より兄弟のむすびして、生涯親しみを失はざらんやうこそ、願はしけれ。」と言へば、三保も喜びて「さては子どもの代に至りても、ますます厚く交はるべし。」とて、盃取り交はして、もろともに誓ひをぞなしける。磯田、「名をば、いかに呼ぶべき。」と言へば、三保の長者しばし打ち案じて、「時は十月なり。十月は良月なり。御身の子は夜生まれ、我が子は、昼生まれぬれば、我が子は、白良と呼び、御身の子は、黒良と呼ばんは、いかに。」と言へば、磯田打ち笑みて、「黒白を以て、昼夜になぞらへし事もしろし。白良は、さきに生まれ出たれば、兄と定むべし。」と言ひて、これより、いよいよ睦ましくぞ、交はりける。

- (注1) 碁||黒と白の石を交互に置き、石で囲んだ地を競う遊び。
 (注2) 虫の氣付きて||出産の氣配があつて。
 (注3) とよみけるうち||大騒ぎしたところ。
 (注4) 言へばさらなり||いまさら言つまでもない。

1 祝ひごと は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 言へ 言へ について、それぞれの主語にあたる人物の組み合わせとして適当なものはどれか。

- ア ① 三保 ② 三保 イ ① 三保 ② 磯田
 ウ ① 磯田 ② 磯田 エ ① 磯田 ② 三保

3 不思議と言ふべし とあるが、「不思議」の内容として最も適当なものどれか。

ア 三保が碁の途中で妻の出産を予感し、帰宅してしまったこと。
 イ 三保と磯田とが飽きることなく、毎日碁に夢中になれたこと。
 ウ 碁打ち仲間である三保と磯田に、同じ日に子が生まれたこと。
 エ 三保と磯田が碁を打つ最中、二人の妻がともに出産したこと。

4 御身の子は、黒良と呼ばん とあるが、「黒良」という名にしたのはなぜか。三十字以内の現代語で答えなさい。

5 本文の内容と合うものはどれか。

- ア 磯田は二人の子どもの名付け親になれることを心から喜んだ。
 イ 磯田と三保は子の代になっても仲良く付き合うことを願った。
 ウ 三保の子は家の者がみんな心配するくらいの難産であった。
 エ 三保は磯田から今後は兄として慕いたいと言われて感動した。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

読者が自由に読めるということは、理論的に小説には「完成した形」とか「完全な形」がないという結論を導く。小説はいつも「未完成品」なのだ。文学理論では、読書行為について考える理論を「受容理論」と呼ぶ。英語で書かれた文学理論書を多く翻訳している大橋洋一は、受容理論の観点からこの点について次のように述べている。

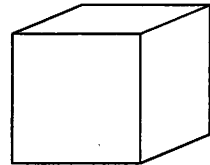
受容理論の観点からみると(中略)、読者とは、限られた情報から全体像をつくりあげること。これを読者と作者との関係からいうと、読者は作者からヒントをもらって、自分なりに全体像をつくりあげるといっていいかもしれません。(『新文学入門』岩波書店、一九九五・八)

ここで言う「全体像」は、音楽の音階を考えるとわかりやすい。「ドレミファソラシド」の音階はピアノの右側の高い音で弾いても、左側の低い音で弾いても同じように聞こえる。あるいは、ギターで弾いても同じ「ドレミファソラシド」に聞こえる。絶対音や音の種類が違うのに不思議な現象だ。⁽¹⁾ こういう現象について、人間には「ドレミファソラシド」という音階を「全体像」として認識する能力があるので、たとえばどの音階でもどんな種類の音でも、一つ「ミ」という音を聴いただけでそれが「ドレミファソラシド」のどの位置にある音かがわかると考えるのが「全体像心理学」である。

大橋洋一の説明に戻れば、受容理論とは「文学作品というものを、完成したものではなく、どこまでいっても未完成なものである」と考えることになる。それは、あたかも「塗り絵理論」のようなものだと言うのである。「塗り絵理論」とは、読書行為はたとえば線

で書かれただけの「未完成」な人形の絵を、クレヨンで色を付けて「完成」させるようなのだとする考え方である。

ここで注意すべきなのは、読者は「全体像」を名指しすることが出来るという事実である。たとえば、上のような「図」(?)を見てほしい。これは何だろうか。多くの人は「立方体」と答えるだろう。だが、なぜ「九本の直線」と答えてはいけないのだろうか。もちろんそう答えてもいいはずなのだ。いや、その方が「正しい」はずである。にもかかわらずこの「図」を「立方体」と答えてしまったためには、二つの前提が想定できる。



一つは、私たちの想像力がこの「図」の向こう側、側面を回って、「九本の直線」に奥行きを与えているということだ。想像力は「全体像」を志向するのである。二つは、そのような想像力の働かせ方をしている、私たちがあらかじめ「立方体」という「名」を、つまり「全体像」を知っているということだ。先の例でも、「ドレミファソラシド」の音階を知らない人に「ミ」だけ聴かせても、「ドレミファソラシド」という「全体像」が浮かび上がってくるはずはない。

目の前にあるテキストが「未完成」であるとか「一部分」であるとか感じるためには、読者に「全体像」がなければならぬのである。つまり、読者は「全体像」を知っているという二つ目の前提が、読者は「全体像」を志向するという一つ目の前提である想像力の働き方を規定していると言える。ここでこの原理を受容理論に応用すると、「作品」とは読者が自分自身に出会う場所であって、「読書行為」とは、読者が自分自身をたえず読んでゆくプロセス(大橋洋一)だということになるのである。なぜなら、読者が持っているすべての情報を読者ごとの「全体像」を構成するからである。⁽³⁾

そう言えば、私たちはこれまで多くの小説を、「成長の物語」とか「喪失の物語」とか「和解の物語」といった類の、私たちがすでに知っ

ている「物語」として読んでいたのではなかっただろうか。つまり、実は小説にとって「全体像」とは既知の「物語」なのである。だからこそ、私たち読者は安心して小説が読めたのだ。

こう考えれば、私たちは小説を読みはじめたときから「この物語の結末はもう知っている」と思うだろう。読みはじめたばかりの小説なのに、もう全部知っているのだ。まだ知らない世界をもう知っているという がそこにはある。読者は知らない道を歩いて、知っているゴールにたどり着く。適度なスリルと、適度な安心感があるのだ。私たちが小説に癒やされるのは、そういうときだろう。

(石原千秋「読者はどこに居るのか」から)

(注) 大橋洋一「日本の英文学者」

1 に入る語として最も適当なものはどれか。

ア 伏線 イ 課題 ウ 逆説 エ 対比

2 (1) こういう現象 とあるが、どのような現象か。文末が「という不思議な現象。」となるように四十字以内で書きなさい。ただし文末の言葉は字数に含めない。

3 (2) 「立方体」と答えるだろう とあるが、その理由として最も適当なものとはどれか。

ア 「立方体」を知らないことよって、かえって想像力が広がり「九本の直線」に奥行きを感じるから。
イ 「立方体」を知らないので想像はできないが、目の錯覚により「九本の直線」に奥行きが生じるから。

ウ 「立方体」を知っていることにより想像力が働き、「九本の直線」に奥行きを与えて見てしまおうから。

エ 「立方体」を知っていることが想像力を妨げ、「九本の直線」に奥行きを与えることができないから。

4 (3) 読者が持っているすべての情報が読者ごとの「全体像」を構成する とあるが、筆者がこのように言うのはなぜか。

ア 読者の経験によって、作品理解における想像力の働かせ方が規定されるから。

イ 読者が作品に込められた意図を想像することで、作品理解に深みが出るから。

ウ 読者の想像力が豊かになることで、作品理解において多様性が生まれるから。

エ 読者が作者の情報を得ることで、作品理解において自由な想像ができるから。

5 (4) 読者は安心して小説が読めた とあるが、筆者がこのように言うのはなぜか。五十字以内で書きなさい。

6 本文の特徴を説明したものととして最も適当なものはどれか。

ア 「」を本文中に用いて、具体例を視覚的に示し筆者の主張と対立させている。

イ かぎ(「」)を多く用いて、筆者の考えに普遍性があることを強調している。

ウ 漢語表現を多く用いて、欧米の文学理論と自身の理論との違いを明示している。

エ 他者の見解を引用して、それを補足する具体例を挙げながら論を展開している。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

「高校一年生の清澄は祖母(本文中では「わたし」)に手伝ってもらいながら、得意な裁縫を生かして姉の水青のためにウエディングドレスを作っている。ある日、清澄は友達とともに、姉が働く学習塾を訪ねた。」

夕方になって、ようやく清澄が帰ってきた。心なしか、表情が冴えない。具合でも悪いのだろうか。

「ちよつと、部屋に入るで。」

裁縫箱を片手に、わたしの部屋に入っていく。(注1)鴨居(かもい)にかけた、仮縫いの水青のウエディングドレス。腕組みして睨(にら)んでいると思つたら、いきなりハンガーから外して、裏返しはじめた。

「どうしたん、キヨ。」

清澄はリッパ(注2)を手にしている。ふーつと長い息を吐いてから、縫い目に挿し入れた。

「えっ。」

驚くわたしをよそに、清澄はどんどんどレスの縫い目をほどいていく。

「水青になんか言われたの？」

「なんも言われてない。」

ドレスを解体していく手つきと裏腹に、清澄の表情は歪(ゆが)んでいた。声もわずかに震えている。

「でも、姉ちゃんがこのドレスは『なんか違う』って言った気持ちがある、なんとなくわかったような気がする。」

学習塾に行った時、水青はしばらく清澄たちに気づかず、仕事をしていたという。「パソコンを操作したり、講師の人となんか喋(しゃべ)ったりする顔が。」と言いかけてしばらく黙る。

「なんて言うたらええかな。知らない人みたい、ともちよつと違うし……うん。でもとにかく、見たことない顔やった。」

清澄はリッパをあつかう手をとめて、空中を睨んでいた。そこに、次に言うべき言葉が漂っているみたいに、真剣な顔で。

「たぶん僕、姉ちゃんのことあんまりわかってなかった。」

生活していくために働いている。やりたいこととか夢とか、そんなのはいつさいない。いつもそう言っている水青の仕事はきつとまらないものなのだと決めつけていた、のだそうだ。

「でも仕事してる姉ちゃん、すごい真剣っぱかった。」

「はあ。」

「生活のために割りきってる、つてことと、真剣やないつてことは違うんやと思つた。」

でもそれが、なぜドレスをほどく理由になるのか、わたしには今いちわからない。

「姉ちゃんはな、ただわかってないだけやと思つとつてん。ドレスのこととか、ぜんぶ。僕とおばあちゃんに任せたらちゃんと姉ちゃんがいちばんきれいに見えるドレスをつくつてあげられるのにつて。どつかでちよつと、姉ちゃんのこと軽く見てたと思う。わかっない僕がつくつたこのドレスは、たぶん姉ちゃんには似合わへん。」

水青のことを尊重していなかった。清澄が言いたいのは、要するにそういうことなのだろうか。そういうことなん？ と訊(き)ねるのでも、やめておく。たとえ拙い言葉でも自分の言葉で語ろうとしている。大切なことを見つけようとしている。邪魔をしてはいけない。

「わかった。そういうことなら、手伝うわ。」

自分の裁縫箱から、リッパを取り出す。向かい合つて畳に座つた。指先にやわらかい網が触れた瞬間、涙がこぼれそうになる。真剣な顔でひと針ひと針これを縫っていた清澄の横顔を思い出してしまった。

「一からつて、デザイン決めからやりなおすの？」

「そうなるね。」

「手伝う時間が減るかもしれんわ、おぼあちゃん。……プールに通うことにしたから。」

「プール。」

復唱する清澄には、さしたる表情の変化はなかった。どんな反応が返ってきたとしても、もう気持ちは固まっていたけど。

「そう。プール。泳ぐの、五十年ぶりくらいやけどな。」

「そうか。……がんばってな。」

清澄はふたたび手元に視線を落とす。ぶつぶつとかすかな音を立てて、糸が布から離れていく。うつむき加減の額にかかる前髪も、皮膚も、まだ新品と言っている。

エ

この子にはまだ何十年もの時間がある。男だから、とか、何歳だから、あるいは日本人だから、とか、そういうことをなき倒して、きつと生きていける。

「七十四歳になって、新しいことは始めるのは勇気がいるけどね。」

清澄がまつすぐに、わたしを見る。わたしも、清澄を見る。

でも、とうかたちに、清澄の唇が動いた。

「でも、今からはじめたら、八十歳の時には水泳歴六年になるやん。なんにもせんかったら、ゼロ年のままやけど。」

やわらかな絹に触れる指が小刻みに震えてしまう。(3)「そうね、という声までも震えてしまいそうになって、お腹にぐつと力をこめた。」

(寺地はるな「水を縫う」から)

(注1) 鴨居しほにふすまや障子しよの上部にある横木のこと。

(注2) リPPERリッパーに縫い目などを切るための小型の裁縫道具。

1 に入る語句として最も適当なものはどれか。

ア ためらいなく

イ 楽しげに

ウ たどたどしく

エ 控えめに

2 見たことない顔 とあるが、ここでは姉のどのような顔のことか。(1)

ア 夢を見つけてひたむきに頑張っている顔。

イ 仕事に対してまじめに取り組んでいる顔。

ウ 家族の生活のために働いて疲れている顔。

エ 職場の誰にでも明るくほほえんでいる顔。

3 本文中の ア エ のいずれかに、次の一文が入る。最も適当な位置はどれか。

自分で決めたこととはいえ、さぞかしくやしかりょう。

4 そうなるね とあるが、清澄はどのように考えて、一からドレスを作り直そうとしているのか。文末が「と考えたから。」となるように三十字以内で書きなさい。ただし文末の言葉は字数に含まれない。

5 (3) そうね、という声までも震えてしまいそうになって、お腹にぐつと力をこめた とあるが、「わたし」が「お腹にぐつと力をこめた」のはなぜか。四十五字以内で書きなさい。

6 「わたし」は清澄に対してどのような思いをもっているか。その説明として最も適当なものはどれか。

ア 清澄ならば自分の生き方へのこだわりを捨て、他者と協調しながら生きていけるだろう。

イ 清澄ならば既存の価値観を打ち破り、自分の信じる生き方に従って生きていけるだろう。

ウ 清澄ならば実社会に出て多くの経験を積み、自分の弱さを克服して生きていけるだろう。

エ 清澄ならば言葉の感覚を磨き、他者との意思疎通を大切にしながら生きていけるだろう。

5

「世の中が便利になること」について、あなたの考えを国語解答用紙(2)に二百四十字以上三百字以内で書きなさい。

なお、次の《条件》に従って書くこと。

《条件》

(I) 二段落構成とすること。

(II) 各段落は次の内容について書くこと。

第一段落

・あなたが世の中にあつて便利だと思っているものについて、具体的な例を挙げて説明しなさい。例は、あなたが直接体験したことでも見たり聞いたりしたことでもよい。

第二段落

・第一段落に書いたことを踏まえて、「世の中が便利になること」について、あなたの考えを書きなさい。